

# ■ ヒューマンインタフェース 特集によせて

平素から、NEC製品・サービスをご利用いただき有り難うございます。

昨今の情報通信技術の進歩はめざましく、家庭、職場、公共の場に高度な情報通信環境が普及し、まさに社会インフラとして、その重要度が増しています。家庭にはPCを始め高度なデジタル情報機器が普及し、これらから得られる便益は計り知れないものがあります。しかし、一方で機器が多機能になり操作が複雑になるに連れて、機器を使える人と使えない人の間での格差を生むといった現象も見受けられます。通信、運輸、金融などの重要インフラも大規模な情報システムが中核に置かれています。残念なことに、ここ1~2年、人為的なミスに起因する重大な事故がいくつか報告されています。

高度な家庭用機器も大規模システムも、最終的には、生活者やオペレータという人間系に操作が委ねられます。社会的にも人間中心の考え方が浸透する中、ヒューマンインタフェースの重要性がますます大きくなっていると言えます。

このように、ヒューマンインタフェースは、その重要性が利用者はもちろんのこと、提供側でも認識されつつありますが、設計方法論は確立したものはなく、経験やノウハウに基づいて開発されているのが現状です。机や椅子のサイズ、視距離など人間工学的な面での数値的なガイドライン、人間中心設計の分野での開発プロセスや、アクセシビリティに関しては標準化も推進されていますが、ヒューマンインタフェース分野は非常に広く、また深いため必ずしも具体的ではなく、特定の観点に留まっていると言わざるを得ません。

NECでは、ヒューマンインタフェースの評価手法、設計ガイドラインの研究開発から、製品・サービスへの適用を繰り返し、技術・ノウハウの蓄積を行ってきました。また、ハードウェアの分野では実装技

術を中心に薄型・軽量の機器を実現してきました。パソコンや携帯電話、Webのインタフェースなどに技術が活かされています。最近では、弊社標準のシステム開発方法論の中に、ヒューマンインタフェースの設計ガイドラインを組み込み、機能と使いやすさの設計が同時進行かつ同じ重みをもって行われる仕組みを実現しました。お客様により使いやすく誤りを起こさないシステムをお届けできるものと考えています。

今回の「ヒューマンインタフェース特集」では、SI系、ソフトウェアパッケージ系を中心とした、使いやすさ向上のプロセス化、その他ユーザビリティ向上活動、さらに、使いやすくするための機能について紹介させていただきます。NECでは、製品・サービスの操作性の向上、統一的な考え方に基づく使い勝手の提供に務めてまいります。また、アクセシビリティの向上など、世界中のお客様が平等に高度な機能を活用したサービスを楽しむよう貢献していきたいと考えています。引き続き、皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いします。



支配人  
笠原 裕